

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会議の名称	第9回総合計画及び地域創生戦略委員会	
開催日時	令和3年5月17日（月）14時00分～16時00分	
開催場所	宍粟市役所本庁舎 402・403 会議室 一宮市民協働センター ホール 自宅等(WEB参加)	
議長（委員長・会長）氏 名	林 昌彦	
委員 氏 名	（出席者） 谷口朱美、東 里司、田中一成、林 昌彦、山田寛、山國和志、高橋美佐子、大坪津義、春名文子、宮辻弘学、西山大作、本條 昇、久野洋貴、岡本一也、西川彩児、村上晃宏	（欠席者） 秋山裕美、小林由佳子、坂本幸子
事務局 氏 名	市長公室：水口公室長、谷本次長 市長公室地域創生課：西嶋課長、谷本副課長、清水係長、前田係長、白畑主査、田渕主事 市民生活部：山本次長、小河次長 健康福祉部：三木次長、安井次長 健康福祉部保健福祉課：平尾課長 建設部：祐谷次長 建設部住宅土地政策課：谷口課長、池田副課長 教育部：橋本次長、中尾次長 総合病院：大前次長、大砂次長、牛谷課長	
傍聴人数	傍聴者なし	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	(非公開の理由)
決定事項	（協議事項） （1）計画（基本目標と基本方針）の具体的内容について ①生活圏の拠点づくりの推進【資料②-1、②-2】 ②移住・定住促進の充実【資料③-1、③-2】 ③子育て支援の充実【資料④-1、④-2】 ④地域医療の充実【資料⑤-1、⑤-2】 （その他） 第10回宍粟市総合計画及び地域創生戦略委員会の開催日について	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料等	別紙のとおり	
議事録の確認	（委員長等） ____委員長 林 昌彦____	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
委員長	<p>■開会</p> <p>■委員長あいさつ</p> <p>本日は、第9回の会議です。第8回は書面会議でしたが、書面だけでは十分に議論できないため、同じ協議項目ですが、改めて議論したいと思います。すでに書面で寄せられた意見に対して回答が用意されています。議論の範囲は、質問されていない項目についても取り上げることも可能です。書面で意見を出した方と事務局の回答という1対1の対応をしながら、他の方も参加していただき、議論を深めていきたいと思ひます。</p>
事務局	<p>■新任委員及び事務局 自己紹介</p> <p>■協議事項</p> <p>(1) 計画(基本目標と基本方針)の具体的内容について</p> <p>①生活圏の拠点づくりの推進</p> <p>(書面会議での意見に対する考え方、回答について資料①-1に基づき説明。計画素案の修正について、資料②-1、②-2に基づき説明)</p>
委員	<p>職員のバス利用について取組を進めてきたことはわかりましたが、市民を含めて一人ひとりの利用する意識が必要です。利用促進について具体的にどんなことを考えているのでしょうか。</p>
委員	<p>せっかく市内を走っていますので、有効利用をしてほしいと思ひます。</p>
委員	<p>以前、姫路直行便のバスの話がありました。あれから5年も経って状況も変わっていると思ひます。働く場所も姫路近辺の人が増えており、高齢者は免許証返納により病院にも行きづらくなっています。バスの乗車時間を短くして医療にかかれるようにしてほしいと思ひます。バスの利用により、二酸化炭素の排出抑制にもつながります。コロナ禍を経験し、宍粟市もベッドタウンになっていく中、姫路に30分で着くバスがあればという提案です。</p>
委員長	<p>バスの利用促進に向けて利用される方の意識をどのように高めていくか、また、市外へのバス路線の見直しがどうなっているのかという意見です。事務局から回答をお願いします。</p>

事務局	<p>バスの利用促進について、現在はコロナ禍により実施できていませんが、子どもたちに対してはバス事業者と連携し、体験乗車等を行ってきました。市民全般に向けては、乗り方や大型・小型バスの乗り換え方法、観光利用としてバスでの旅などの動画を制作してPRしています。また、令和元年度には路線バス運行 100 周年として、子どもたちに「未来のバス」を描いてもらいラッピングバスを走らせ啓発しており、職員のバス利用は庁内の掲示板等で啓発しています。</p> <p>現在、姫路直行便について具体的な話はありませんが、広域路線でもバス利用者が減少しており、複数自治体が関係する中で、導入により他路線のマイナス収支が膨らむことが懸念されます。目的に応じ、例えば観光シーズンに直行便を走らせるなどの取組については検討できるのではないかと考えています。</p>
副委員長	<p>バス利用について、できるだけ幅広い層で使っていただく提案は、そのとおりだと思います。バス運行の規制についてお伺いしたいのですが、例えばスクールバスを一般の方が料金を払って利用する場合、規制上の問題やハードルがあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>法的な規制はありません。スクールバスに一般の方を乗せる混乗は可能ですが、学校が計画している事業ですので、登下校の時間帯に乗っていただくことになるため、市民の理解が進まないと思います。全国的には、一般のバス事業者がしている路線とスクールバスを統合している事例はあります。</p>
事務局	<p>②移住・定住促進の充実  (書面会議での意見に対する考え方、回答について資料①-1に基づき説明。情報発信についての意見について、基本構想への追記を検討していることを説明)</p>
委員	<p>主に空き家バンクのことで質問しましたが、連携を図る対策を実施しようとしていることは説明でわかりました。連携の仕方について、民間との情報の共有にとどまっているというのが今のところの感想です。活用方針の検討などについて、民間の柔軟な協力はないですか。</p>
委員長	<p>以前の産業に関する議論でも、直接関わる方はもちろん、いろいろな連携が必要ではということでした。空き家、雇用の問題も関わってきます。連携の取り方について情報共有以外が見えないという意見だと思います</p>

事務局	<p>が、事務局いかがでしょうか。</p> <p>空き家バンクに関する取組については、民間への業務委託も視野に入れています。民間のノウハウ、専門家の意見を聞きながら、移住・定住促進を進めています。</p>
委員	<p>今後もっと民間との連携について検討してほしいと思います。移住・定住につなげるためには、情報発信と連携が必要で、不動産部門との連携はもちろん、多方面の事業者との連携が必要だと感じています。</p>
委員長	<p>空き家活用について、管理だけでなく地域の魅力も含めた情報発信について検討をお願いします。シティプロモーションのあり方について、基本構想に記載したいとのことですが、どのような記載となりますか。</p>
事務局	<p>計画素案の「情報共有の推進」という項目では、市民アンケート、パブリックコメント、タウンミーティングの実施という記載にとどまっており、情報発信の方法には踏み込んでいません。現状では具体的にお示しできませんが、追記していきたいと考えています。</p>
副委員長	<p>情報発信は、今のタイミングで進めることが重要だと思います。今こそ宍粟市の魅力を強く発信するべきです。情報発信に対する責任ある部署、責任者を置き、行政側の組織としても最優先で進めていかなければいけないと思います。また、宍粟市の魅力について把握しておかなければいけません。子育ての充実、地域医療の充実を先行して整えるなど地域の魅力を高めることも必要で、情報発信の仕組みを作ればいいというわけではありません。受け手側の知りたいことを把握し、そこに訴えかけるようなプロモーションを考える必要があります。広い地域及び幅広い層を対象にして調査機関等を活用して、移住希望者の掘り起こしを合わせて実施していく必要があると思います。</p>
委員	<p>生活や子育ての充実に関する情報発信が重要だと思います。宍粟市では特定健診を地域ごとに実施していたということもあり、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種の予約もスムーズだと聞いています。子どもの人数が少ないことで、少人数学級による手厚い教育なども、大きな市に比べると充実していると思います。子育てしやすいところをさらに進めながら、PRしてほしいと思います。</p>

委員	千種町七野では、1年間に空き家が4件契約に至ったと聞きましたが、契約に至った要因について教えていただけますか。
事務局	宍粟市の空き家バンクは成約実績が豊富にあり、制度開始以来190件程度成約しています。市外からも注目されていて、物件をホームページ等にあげるとすぐに問い合わせがあります。千種町七野の物件については、成約要因としては値段が安かったということもあります。
委員長	価格が安いという意見でしたが、移住を考えている方が何を考えているのかニーズを把握し、ターゲットを絞っていくことが重要です。行政内部で情報発信をしていく司令塔はどうなっているのでしょうか。他部署で把握した情報を共有できる仕組みはどうですか。
事務局	今年度より、行政内部の横断的なとりまとめ役として、交流促進に携わる職員を配置しています。市内のことを熟知した職員が担当しており、連携、情報共有の強化を進めていきます。市外の宍粟市に対する見方の分析や、ターゲットを絞って情報発信していくことは、行政が苦手にするところです。現在は、民間活力を活用した分析、情報発信など営業活動について検討を進めているところで、具体的なスケジュールは決まっていますが、今年度中に進めていく予定です。
委員長	新しいポストを用意したということですが、その担当者が中心に情報発信の戦略を作っていくのですか。
事務局	情報発信、プロモーション等のような部分を民間にお願いするかも含めて検討中です。
委員長	その際、空き家バンクの成約者が、宍粟市のどの部分に魅力を感じたかなどについて情報が集まる仕組みを作ってほしいと思います。基本構想部分で検討した結果を示したいとのことですので、どのような内容にするのか検討をお願いします。
委員	数年間、姫新線の播磨新宮駅のパーク&ライドを利用しましたが、利用者が少ないのに定期券購入というハードルが高くなり、今年度から使えなくなりました。駐車スペースも他の人が停めていることがあり、厳格に管理されているようでもないようでしたので、柔軟性を持って考えていただけたらと思います。

事務局	<p>この事業は、たつの市、宍粟市、上郡町、佐用町による定住自立圏事業として、たつの市が実施しています。パーク&amp;ライドとして15台分の駐車枠が用意されており、宍粟市では3分の1程度の利用となっていますが、圏域での利用のため宍粟市のみの制度改正の要望だと難しい状況です。鉄道が通っていない宍粟市が一番利用すべきところですので、現状をたつの市に伝えていきます。</p>
事務局	<p>③子育て支援の充実 (書面会議での意見に対する考え方、回答について資料①-1に基づき説明)</p>
委員	<p>子育て支援に当てはまるかわかりませんが、最近、テレビの報道でヤングケアラーという言葉が耳にします。子どもなのに家族の介護等で生活を割いている人が一定数いるとのことですが、宍粟市にそういった子どもがいるのか把握できているのでしょうか。</p>
事務局	<p>国ではヤングケアラーの調査報告が出ていますが、宍粟市では個々の相談、学校の中での対応などがありますが、ヤングケアラーに関する個別の調査は行っていません。現在は、児童・生徒の見守り等の中で対応しています。</p>
委員長	<p>想定されなかったことが起こっている中で、迅速に気付いて支援していくことが必要という趣旨だと思います。学校現場の情報が、福祉部門と横断的に共有される仕組みはできているのでしょうか。</p>
事務局	<p>家庭児童相談員を配置しており、家事を強要されたりして精神的、身体的に負担がある児童・生徒については相談から把握しており、学校・保育所と連携し、支援が必要となる家庭には、児童相談所等とも連携しながら対応を進めています。ヤングケアラーの対象となる子どもがいないか、国からの調査がありました。市で把握している要支援の子どもには該当する子どもはいませんでした。過去には、家事などが子どもの負担になっていた事例はありました。今後も学校と連携して進めていきたいと思っています。</p>
委員	<p>めざすまちの姿が、「家庭、地域、ボランティア、事業者、学校、行政などが一体となり子育てをみんなで支える」となっています。仕方ないのかもしれませんが、施策を見ると個別の事業が断片的に列記されており、めざすまちの姿とつながっていないように感じます。関係する人達が一體となって、子育てに関心を持って支えていく地域として、意識の醸成を進め</p>

	ていく施策が必要ではないでしょうか。
事務局	めざすまちの姿となるよう施策をどのようにしていくか、素案の表記も含めて検討します。
委員長	当事者の方は様々な問題を抱えており、支援が断片的ではなく、包括的になってはじめて効果があがっていくものです。個々の施策の中でどのように具体化していくか、行政として横断的、包括的な支援について、当事者の意見をどのように把握して対応するかが重要です。情報を共有し、アイデアを出していくところをどのようにしていくのか議論をしていきたいと思います。現場で情報を持っているところからアイデアがあればお願いします。
副委員長	子育てをしている人の個別対応ではなく、いろいろな分野に関わることについて包括的に対応する施策がないかということですが、子育て支援センターの機能に子育て中の人の悩みを集約して、行政の各部署に関係するところに情報を共有していくキーステーションになる機能はないのですか。個別の子育ての悩みに対処療法的なものになっているのか、包括的な機能も合わせてもっているのでしょうか。
事務局	現在、子育て支援センターは在宅で子育てをしている家庭の利用が中心となっており、その方々の交流が中心です。今後は認定こども園の中でも子育て支援センターの事業を実施することも検討されています。そういうところとも連携しながら、今は備わっていませんが、子育て中の親やそれを支援する人の意見を集約する仕組みについて、充実を図っていきたいと思います。
委員長	司令塔がないようなので、それも含めて検討が必要だと思います。
事務局	④地域医療の充実 (書面会議での意見に対する考え方、回答について資料①-1に基づき説明)
委員	新病院建設に反対という立場からの意見です。医療機関の合併や高砂市民病院の民営化など、いろいろなニュースを聞きます。医療は大事ですが、多額のお金を出して新しく建設までする必要があるのかということです。良い病院ができて救急の対応ができないのであれば、姫路駅前の病院に運ばれることになると思いますので、ドクターヘリについても触れられて

	<p>いましたが、宍粟市のドクターヘリを所有するなどそちらに費用をかけることができないのでしょうか。脳卒中や心臓病関連は、搬送時間が短ければ、短いほど良いと聞いています。また、民間にすれば、医師の給料も制限がなくなります。医師が希望するのも東京・大阪が多いと聞いていますが、子どもの教育環境や利便性なども考えられます。都市部に最短で救急搬送できるように考えていったらどうかということで質問させていただきました。</p>
委員	<p>総合病院が不採算の医療分野に取り組む必要があり、経営状況が厳しいということで理解しました。新病院の建設にはいろいろと市民の意見があります。未収金があるということも聞きましたが、どうなのでしょう。</p>
事務局	<p>総合病院は広い宍粟市域だけではなく、佐用町、姫路市北部やたつの市北部などからも多く利用があり、広い地域をカバーしています。救急については宍粟消防と連携をとりながら、まず総合病院でファーストケアを行い、高度な治療を要する場合には、姫路方面に搬送しています。波賀町域や千種町域から総合病院まで1時間近くかかり、姫路までさらに1時間かかることになるため、宍粟で医療ができる救急疾患まで姫路へ搬送することはできません。総合病院で救急搬送された患者の状態を判断しながら、まずは総合病院で受け入れ、さらなる治療が必要であれば転院するという形をとっています。</p> <p>また、手術ができないのではというご意見ですが、総合病院では年間に約1,000件の手術を行っており、そのうち約100件の緊急手術を行っております。それだけの緊急手術を他の病院へ搬送してというわけにはいきませんので、総合病院でできる手術については、総合病院でなるべく早くケアするという形で取り組んでいるところです。夜間等では、内科と外科の医師2人態勢をとる中で、内科・外科とも連携をとりながら、85%から90%の救急車を受け入れています。</p> <p>続いて医師の確保について、県の保健医療構想の中で、総合病院は特定中核病院の指定を受けています。特定中核病院は、県から医師を派遣する位置づけがされており、県下でも西播磨北部は医師が集まりにくい地域となっており、県として地域に必要な病院として、養成医を中心に県から若手の医師が派遣され、現在も活躍いただいています。今後も県の指定を受ける中で、若手の医師が地域の医療に携わり、地域医療を守る中で、地域包括ケアシステムの確立に向けた取組を進めていただけないかと期待しています。</p> <p>最後に、未収金については、現在、年度末時点で約800万円から1,000</p>

	<p>万円程度で推移しています。決算上年度をまたぐため、例えば3月の医療費は未収金扱いとなってしまいますが、4月から5月上旬には入ってきます。その他の以前から収入できていない未収金は800万円程度あります。中には、すでにご本人が亡くなられ、家族や血縁者がいないということで追跡がしにくい状況になっている未収金もあり、関係者の洗い出しに取り組んでいます。</p>
委員	<p>課題にあるとおり、10年先には後期高齢者の人口がピークを迎えます。現在、一宮町域には3つの開業医があり、かかりつけ医として安心して医療にかかっていますが、10年後には医師もかなり高齢になります。かかりつけ医の重要性が叫ばれている中、10年先に市北部地域にある、かかりつけ医の存在がどうなるのか心配しています。総合病院のあり方も重要ですが、姫路圏内の高度医療機関も重要です。かかりつけ医、総合病院、高度医療機関のスムーズな連携をお願いしたいと思います。地域から医療がなくなると生活圏の拠点づくりも崩壊してしまいます。</p>
事務局	<p>市民は開業医をかかりつけ医として家族構成や症状など、理解してもらい医師を持ってもらいたいと思います。もう少し詳細な検査が必要である時、総合病院を紹介していただき、これまでの情報もかかりつけ医から提供いただきながら、担当の医師が検査内容等を検討します。原因を把握して、大きな手術が必要であれば姫路あるいは神戸などの高度医療機関を紹介していく仕組みを今後も維持していきます。急性期は高度医療、回復期は総合病院、退院すればかかりつけ医でフォローしてもらおうというネットワークの医療体系をめざしています。ご心配のように、かかりつけ医が高齢化していくことは市北部の大きな問題です。行政と病院で協議を進めながら地域医療が崩壊しない形を検討していきます。</p>
委員長	<p>めざすべきは医療機関の連携の中で包括的な対応をしていくことですが、医師の高齢化が顕在化していくことが課題となっています。</p>
事務局	<p>■その他</p> <p>第10回宍粟市総合計画及び地域創生戦略委員会の開催日について  日時：令和3年6月17日（木）14時00分～16時00分  場所：市役所4階会議室、一宮市民協働センター、自宅等WEB参加</p>
副委員長	<p>コロナ禍での安全確保のためリモートでの会議となり、慣れない面もあったかもしれませんが、活発な意見をいただいたと思います。今日のテー</p>

	<p>マは宍粟市の魅力をつくるため、安心・安全を確保するためのテーマでした。限られた時間の中での意見はもとより、身近なテーマだと思いますので、ご意見があれば行政に積極的に働きかけていただければと思います。ありがとうございました。</p>
--	--